

2023

9 SEP.

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 76

2▶ 東大和市医師会の紹介と医療連携について

3▶ 血液内科紹介

6▶ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科紹介

8▶ 放射線治療科紹介

10▶ 放射線診断科紹介

11▶ 立川病院ホームページを全面リニューアルしました

立川病院 だより



病院外観

東大和市医師会の紹介と医療連携について



東大和市医師会
会長
辻 亮作

日頃より、当医師会員との医療連携にご協力いただき誠に感謝申し上げます。

この度、東大和市医師会の会長を務めることになりました。宜しくお願い申し上げます。

東大和市は狭山丘陵を背に多摩湖を望む自然豊かな町です。この多摩湖には日本一美しいと言われる取水塔があり、私自身会長用名刺に印刷して使用しています。また玉川上水の分水である野火止用水には虫も生息する地域です。

東大和市医師会は会員51名の規模の小さな医師会です。医療機関は42診療所、2病院です。東大和市民8万5,000人および近隣市町村の方々の健康を守り、地域医療の発展を目指して日常診療や健診事業、ワクチン接種などの予防医療を行っています。また市民の疾病予防と健康増進のため毎年市民講座を開催しており、来年2月に第20回市民講座を予定しています。ここ数年のコロナ禍においては市場前会長を中心にPCRセンターの立ち上げ・運用、コロナワクチン集団接種、休日急患診療所でのコロナ抗原検査による発熱外来など多くの会員に長期間にわたり協力を得て、何とか乗り越えてきました。いざという時の会員の協力体制は、他の医師会に負けないのではと自負しています。

医師会活動の中心となる理事会は、11人の理事と2人の監事で月1回開催し運営に当たっています。先日、4年ぶりとなる納涼会を開催し、久しぶりに多くの会員が顔を合わせにぎやかな会となりました。会員同士の交流のため今年度は、宝塚歌劇団鑑賞や新年会、ゴルフコンペなど予定しています。

貴院には当医師会の多くの医療機関がお世話になっていることと思います。専門性の高い疾患や診断・治療に迷うことも多い日々の診療において、貴院との密な医療連携が、会員の安心感を与えてくれます。地域医療に貢献するため、今後も貴院との連携は非常に重要であり、益々の連携強化をお願い申し上げます。

血液内科紹介

血液内科は現在、常勤医4名＋外来担当医3名の体制で診療を行っており、大学病院や造血幹細胞移植推進拠点病院などと連携して、最新の知見に基づいた質の高い医療を提供できるよう努めております。また、治癒を目指した化学療法はもちろんのこと、ご年齢や併存疾患の状況によっては生活機能維持を優先し、強度を抑えた治療法も提案させて頂いており、患者さんに合わせた幅広い対応が可能です。

多摩地域とくに西部では、その人口に対して血液内科医師数が絶対的に不足する状況が続いており、血液内科を標榜する医療機関も数えるほどしかありません。当科では、この地域にお住まいの患者さんがこの地域で適切な血液内科診療を受けられるよう、徐々にではありますが受け入れ態勢を強化しております。近隣の医療機関とも連携しながら、当科が所在する北多摩西部医療圏はもちろんのこと、より広域から患者さんを受け入れられるよう努めておりますので、お困りの際はご相談ください。

診療体制について

外来は、平日すべての曜日で初診枠（地域医療連携枠）を設けており、予約制としています。円滑な受診のため、あらかじめ当院地域医療連携センターへ診療情報提供書のFAXをお願いしております。混雑状況にもよりますが、おおむね2-4週以内の日程でご予約をお取り頂けます。また、ご依頼いただいた内容により、緊急性が高いと判断される場合（発熱、経口摂取不良、体動困難、芽球の出現、急激な血球減少など）は、当日の受診や緊急入院にもできる限り対応致します。

入院は、クリーンルーム（いわゆる無菌室）20床を中心に、共用床を含め30床前後で運用しています。週1回の血液内科カンファレンス、多職種カンファレンスにおいて治療方針の検討や共有を行い、安全安心な医療の提供に努めています。

入院で化学療法を導入されたのち、外来で化学療法を継続される患者さんが増えており、外来化学療法室16床（ベッド6床、リクライニングシート10床、全科共用）を活用して治療を行っています。



クリーンユニット入口



クリーンルーム個室

診療内容について

血液内科では、血液細胞の増加・減少、異常血液細胞の出現、リンパ節の腫れ、免疫グロブリンの増加・減少、繰り返す血栓症や出血傾向などのご相談に対応しています。

主な対象疾患は次のとおりです。

- 急性白血病：急性骨髄性白血病、急性前骨髄球性白血病、急性リンパ芽球性白血病、急性混合性白血病など
- 悪性リンパ腫：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、濾胞性リンパ腫、ホジキンリンパ腫など
- 多発性骨髄腫：形質細胞腫、単クローン性ガンマグロブリン血症を含む
- 慢性リンパ性白血病
- 慢性骨髄性白血病
- 骨髄増殖性腫瘍：真性多血症、本態性血小板血症、骨髄線維症など
- 骨髄異形成症候群
- 再生不良性貧血
- 自己免疫性溶血性貧血
- 特発性血小板減少性紫斑病
- 栄養障害に伴う貧血：ビタミンB12欠乏性巨赤芽球性貧血など
- 凝固異常症：血友病、後天性血友病、フォンウィルブラント病、抗リン脂質抗体症候群、血栓性血小板減少性紫斑病、特発性血栓症（先天性血栓性素因）など

移植施設について

造血幹細胞移植（同種および自家）やキメラ抗原受容体改変T細胞（CAR-T）療法を検討する場合は移植施設にご紹介しています。

主なご紹介先：慶應義塾大学病院、虎の門病院、都立駒込病院、国立がん研究センター中央病院、杏林大学医学部附属病院、多摩北部医療センターなど

医師紹介

外山 高朗（とやま たかあき） 医長 化学療法センター長
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本血液学会 血液専門医・血液指導医
日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医

小橋 澄子（こはし すみこ） 医員
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本血液学会 血液専門医・血液指導医
日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医

城下 郊平（しろした こうへい） 医員
日本内科学会 認定内科医
日本血液学会 血液専門医・血液指導医
日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医

工藤 ひまり（くどう ひまり） 医員
日本内科学会 内科専門医

坂元 美紀 (さかもと みき) 医員

安部 涼平 (あべ りょうへい) 非常勤

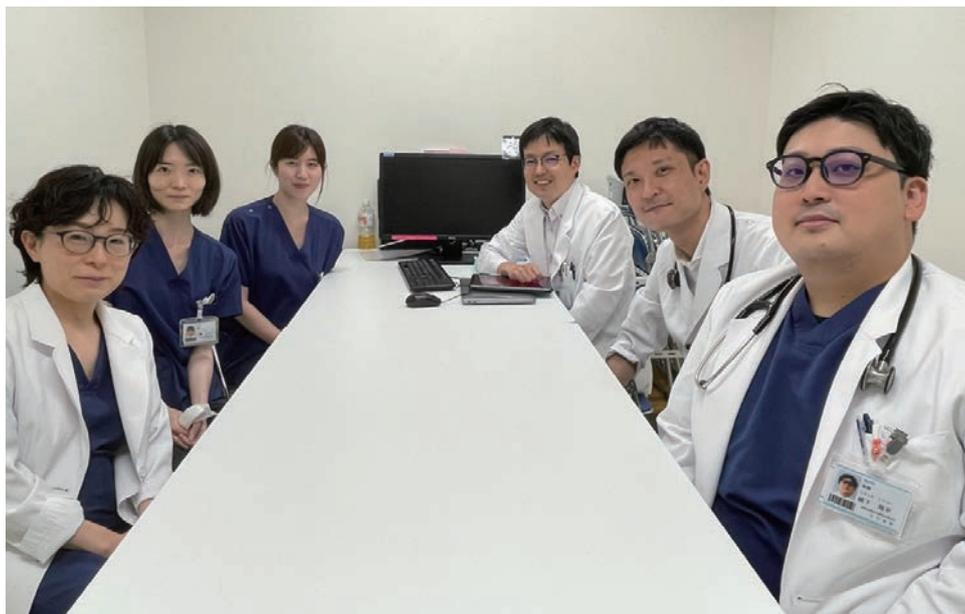
日本内科学会 認定内科医・指導医

日本血液学会 血液専門医・血液指導医

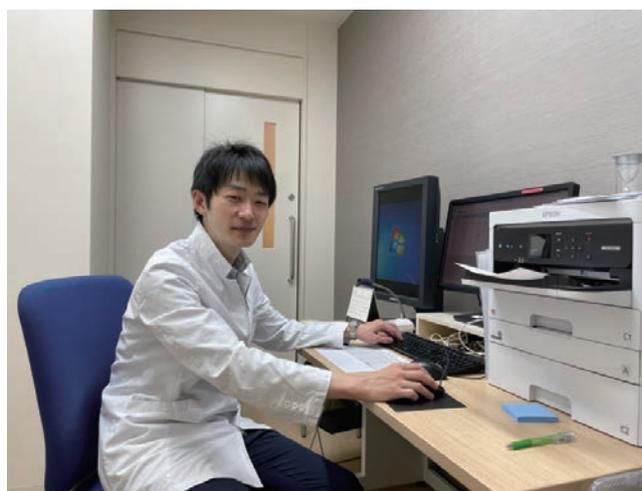
藤田 進也 (ふじた しんや) 非常勤

日本内科学会 認定内科医

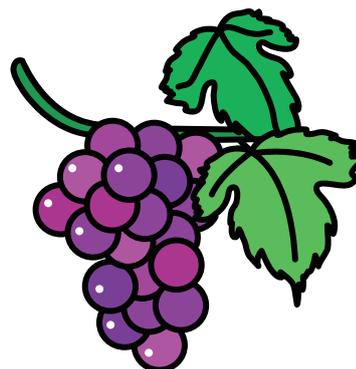
日本血液学会 血液専門医



血液内科スタッフ 左から 小橋、工藤、坂元、外山、安部、城下



藤田



耳鼻咽喉科・頭頸部外科紹介

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、今年度は常勤4名の診療体制です。

当院は、入院や手術への対応が主体となっております。耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、対象疾患が非常に多岐にわたるため、診療内容は施設による差が大きいかもしれません。当院での診療を紹介させていただきます。

診療内容について

- 耳・聴覚**：滲出性中耳炎（鼓膜チューブ挿入術）、先天性耳瘻孔（耳瘻管摘出術）、突発性難聴（ステロイド治療）、顔面神経麻痺（ステロイド治療）、
- 鼻**：慢性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎等（内視鏡下鼻・副鼻腔手術やデュピクセントによる抗体療法）、副鼻腔良性腫瘍（内視鏡下鼻・副鼻腔手術）、鼻中隔彎曲症（鼻中隔矯正術）、肥厚性鼻炎（下鼻甲介切除術）
- 喉頭**：声帯ポリープ、ポリープ様声帯等（喉頭微細手術）、喉頭癌（喉頭悪性腫瘍手術：レーザー切除や喉頭全摘術）、嚥下障害（声門閉鎖術など誤嚥防止手術）、気道狭窄等（気管切開術）、声帯麻痺（音声改善手術）
- 咽頭**：習慣性扁桃炎等（口蓋扁桃摘出術）、アデノイド増殖症（アデノイド切除術）
- 口腔**：早期舌癌（舌部分切除術）
- 頸部**：唾液腺疾患（耳下腺腫瘍摘出術、顎下腺摘出術、舌下腺摘出術）、甲状腺良性・悪性腫瘍（甲状腺摘出術）、頸部リンパ節腫脹（頸部リンパ節生検、頸部郭清術）、正中頸のう胞・側頸部のう胞（のう胞摘出術）、頸部膿瘍（切開排膿術）
- 炎症疾患**：急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍等に対する抗菌薬治療
- 悪性腫瘍**：咽頭癌・喉頭癌に対する化学放射線療法

- ・富永医長による、専門性の高い誤嚥防止手術、喉頭レーザー切除術を行っております。
- ・頭頸部癌に対する放射線療法は、放射線治療科、歯科口腔外科と治療方針を検討しております。治療中は医師、看護師、薬剤師、栄養士による多職種カンファレンスを行い、支持療法を行っております。必要に応じ緩和ケアチームに診療を依頼したり、ソーシャルワーカーによる退院調整など、各部署の連携により、チームで診療しております。

連携施設について

当科は慶應義塾大学病院、杏林大学医学部付属病院と連携しております。

医師紹介

羽生 昇（はぶ のぼる） 部長
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医・指導医
がん治療認定医

富永 健裕（とみなが たけひろ） 医長
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医・指導医
日本気管食道科学会専門医

立之 大智 (りつの だいち) 医員
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

宗 大貴 (そう ひろたか) 医員

今後とも、関連各科、近隣医療機関との連携を密に診療を行っていきたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。



左から 羽生、立之、宗、富永



放射線治療科紹介

皆さま、こんにちは。

立川病院・放射線治療科では、各診療科で扱うあらゆる“がん（※）”に対して医療用放射線を用いて治療を行っています。

※脳腫瘍、口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、肺癌、乳癌、食道癌、胃癌、直腸癌、肛門癌、膀胱癌、前立腺癌、子宮癌、悪性リンパ腫、骨髄腫、皮膚癌、骨・軟部腫瘍、など

がんの根治（完全に治す）から緩和（症状を和らげる）に至るまで、放射線照射単独、あるいは手術や抗がん剤などと組み合わせながら、主治医の先生と共に患者さんの病状に応じた最適な医療を提供して参ります。

では、当科の紹介です。



（医師より）

2名の医師で診療を担当しています。

がんと診断されて、どの様な治療方法を選んだら良いのか迷う事があるかもしれません。

- がんが治る可能性が一番高い治療法
- なるべく副作用が少ない治療法
- これまで通りの生活が続けられる治療法…

個々の病状を踏まえた上で、患者さんの希望も聞きながら最も適した治療法をご相談させていただきます。



（看護師より）

放射線治療室でのかわりは一時に過ぎませんが、治療中～治療後の生活をその方らしく過ごして頂ける事を大切にしています。

体の症状のみならず、生活や気持ちに寄り添い、いちばん身近な存在でありたいと思っています。

「こうやって過ごしたい」を叶えられる様に皆さんの声を聞かせて下さい。



（診療放射線技師より）

個々の患者さんの治療方針などを医師・看護師と共有しながら、実際の治療を行っています。具体的には

- 放射線治療装置の操作しての放射線照射
- 患部に正確に照射する為の姿勢の調整や画像の確認
- 放射線装置が正確に作動する為の毎日の管理作業などです。

日々の治療を通じて、患者さんの病状が回復に向かう事が私たちのモチベーションとなっています。



(医学物理士より)

目には見えない放射線が患部に適切に照射されるように高度な物理の知識を活かしながら専用コンピューターを用いてシミュレーションや検証などを行い、日々の放射線治療が安全で確実なものとなる様に陰で支えています。

様々な専門的知識を持つスタッフが、1人1人の患者さんに最適な治療の提供という目標に向かって、一丸となって診療にあたっています。

現在当科では、“強度変調放射線治療”と呼ばれる高精度な照射法の開始に向けて準備を進めており、従来にも増して「体に優しく」「効果が高い」医療の提供を目指して参ります。

医師紹介

沓木 章二 (くつき しょうじ) 部長
日本医学放射線腫瘍学会 専門医
米国放射線腫瘍学会 会員
慶應義塾大学医学部放射線科学教室 (治療) 非常勤講師

舟越 和人 (ふなこし かずと) 医員
日本医学放射線腫瘍学会 専門医



放射線診断科紹介

放射線診断科は今年度常勤医1名が加わり、常勤医が4名となりました。これに脳神経領域や核医学、骨軟部領域などの診断を専門とする非常勤医も加わり、幅広い領域において、質の高い画像診断を行うことのできる体制が整っています。

放射線診断科の業務の主なものは、当院各診療科や地域の先生方から依頼される多種の画像検査のうち、CT、MRI、アイソトープ検査につき、放射線技師と協力のもとに最善の方法で検査を実施し、得られた画像を診断し、報告書を作成することです。頭から足まで、全身の疾患が画像診断の対象となります。また、消化器外科との術前カンファレンス、呼吸器内科、外科とのカンファレンスに参加し、治療方針や画像の解釈に関してコメントし、診療に寄与しています。

もう一つの業務として、IVR (Interventional Radiology、画像下治療) があります。X線やCT、超音波を見ながら標的の病変に到達し、種々の治療を行う方法です。体に数mmの傷ができるだけで、麻酔も局所麻酔のみででき、患者さんの負担が少ない低侵襲治療です。肝臓がんに対する塞栓療法 (TACE) や、出血に対する止血術、CTや超音波のガイド下に腫瘍やリンパ節の組織を採取する生検術などを行っています。

画像診断の装置は年々進化しており、これまではCTであれば多列化、MRIであれば高磁場装置の開発というハード面の進歩が主なものでした。最近では人工知能 (AI) 技術が、主に画質向上という面で活用されてきております。今後はAIが病変の拾い上げや、過去画像との比較についてもサポートしてくれて、画像診断の精度向上に寄与してくれることが期待されています。

画像診断機器

CT 64列 GE ヘルスケア Discovery CT750HD
64列 シーメンス SOMATOM Definition AS IVR-CTとしても使用可能
MRI 3テスラ GE ヘルスケア Architect
1.5テスラGE ヘルスケア Signa HDx
SPECT キヤノンメディカルシステムズ Symbia E

本年度末に、CTとSPECTが新しい装置に更新されます。特にCTは320列の検出器を有し、管球1回転、わずか0.275秒で心臓全体の撮影が可能で、心拍数の多い、または不整脈の患者さんでも冠動脈の狭窄を評価することができます。また、最新のディープラーニング技術を備え、これまで以上の低被ばく、高画質を実現します。

常勤医師紹介

岡村 哲平 (おかむら てっぺい)	部長	日本医学放射線学会専門医 (診断)、 指導医 日本IVR学会専門医
樋口 睦 (ひぐち むつみ)	医長	日本医学放射線学会専門医 (診断)、 指導医
宮澤 雷太 (みやざわ らいた)	医員	日本医学放射線学会専門医 (診断)
筒井 聡一郎 (つつい そういちろう)	医員	日本医学放射線学会専門医 (診断)

立川病院ホームページを全面リニューアルしました

2023.07.31

地域の皆様のための開かれた病院であり、出産・健診・治療・退院後の生活まで様々なライフステージに応じた医療を当院が提供できることを皆様にお伝えすべく、ホームページを全面リニューアルいたしました。

より使いやすく、シンプルな操作を心がけて新ページを作成しております。

各診療科の紹介だけでなく、複数科・多職種で連携して治療にあたる各種センターの紹介に力を入れております。また、当院の特徴でもある各種専門外来や診療技術部門の紹介も新たに加えました。

また、私たち職員の患者さんに対する想いを伝えるため、写真や動画を使った『立川病院とは』を作成したことも今回のリニューアルの大きな特徴です。

単なる病院の紹介としての機能だけでなく、患者さんや閲覧する皆様にとって有益な情報を提供したいとの思いから、疾患・症状を当院多職種スタッフがわかりやすく説明したコンテンツ『健康コラム』や『疾患解説』も掲載しております。

新しく生まれ変わった立川病院ホームページを是非ご覧ください。



※これまでブックマークされていた場合は新トップページ (<https://tachikawa-hosp.kkr.or.jp/index.html>) を登録しなおしてください



ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和5年9月1日（年6回）
発行者：立川病院地域医療連携センター
編集者：片井均、風間友子

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

地域医療連携センター

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160